

重点目標	課題	評価指標と活動計画	評価指標達成度及び活動計画実施状況	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題	
学校と家庭が連携を深めるために、主体的な学習態度や確かな学力を持った生徒を育成する。	(1) 計画的、効率的な授業の展開	評価指標 ①	「主体的で計画的な学習ができています」生徒の肯定的評価70%以上 「シラバスを効果的に活用し、計画的な学習指導ができています」教職員の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は56.7%(-1.3)、教職員の肯定的評価は70.5%(-2.4)であり、生徒の評価は昨年度より微減であり目標に到達しなかった。	B	教科の研修については、英語・数学で県外のスーパーティーチャーを招いて公開授業や研究会を行うなど十分な取組ができています。若手教員の授業力の改善に大いに役立っていると思う。家庭学習時間については、昨年より増加していることから学校の指導を感じることができる。しかし、総合評価で指摘があるように、家庭学習は自主的な学習が基本である。週末課題等を工夫して自主的な学習ができるようにしてほしい。SSHについては、海外研修や種子島研修など昨年から教員や生徒に定着してきた。また、新たな事業にも積極的に取り組み、成果も上がっており、生徒は各種事業について関心を示し科学的思考も深まった。	○生徒の主体的な学習を促す取組は、生徒の自立を促す取組との相乗効果を踏まえて平素から粘り強く取り組んでいく必要がある。 ○週末課題にマンネリ化が生じていると考えられる。各教科間の連携だけではなく部活動の協力も得ながら、生徒にとって新鮮な内容を取り入れていく工夫が必要である。 ○学習到達度や学習意欲の低い生徒には個別指導も行うなど支援を具体化する必要がある。さらに、テスト反省の意義を理解させ、意欲的な取り組みをなお一層促す必要がある。 ○SSHの取組に対しては多くの生徒が興味関心を持ち有意義に感じているので、次年度以降も生徒の実態に即した内容を取り入れ、事業全体をさらに深化していく必要がある。 ○PTA活動の活性化に関しては、PTA役員等からの呼びかけ等、効果的な情報発信の方法を工夫する必要がある。 ○ホームページに関しては、更新の回数は多かったが、ページによってばらつきがあり、どのページも更新されて充実されるよう、改善する必要がある。
		評価指標 ②	「プリントや補助教材、IT機器などを用いて効果的な授業に努めている」教職員の肯定的評価90%以上	教職員の肯定的評価は90.9%で目標はほぼ達成できた。			
	活動計画	①	シラバスや面談、集会などを効果的に活用し、計画的な学習スタイルを確立させる。	年度初めに各教科・学年で学習方法などのガイダンスを行ったり、長期休暇前には学年集会などを通して生徒への啓蒙を行ってきた。			
		②	教材研究時間を確保し、各教科でプリントや補助教材の共有を図る。	各教科内で教員同士の連携を深め、教材の選定・共有を積極的に図った。			
	(2) 指導方法の工夫・改善	評価指標 ①	「授業力向上に授業公開・参観授業を役立てることができた」教職員の肯定的評価90%以上	積極的に授業力向上に努め、教職員の肯定的評価は90.9%(-0.6)で目標はほぼ達成できた。			
		評価指標 ②	「教科会を指導方法の工夫や改善に繋げることができた」教職員の肯定的評価80%以上	教職員の肯定的評価は65.9%(-19.5)であり目標は達成できなかった。			
	活動計画	①	授業研究週間を年2回(各2週間)設けるとともに、協働的問題解決型の授業公開を全教職員が行う。	授業研究週間は予定通り実施し、協働的問題解決学習については5回の研修を行った。授業公開も全教員で取り組んだ。また9月には授業研究会を実施し、県内外から70名の参加者を得て研究協議会ができた。			
		②	各教科で定期的に教科会を開催し、学習指導の方法の工夫や改善について検討する。	必要に応じて教科会は実施してきたが、定期的に行うことはできなかった。			
	(3) 学習習慣の確立	評価指標 ①	「テスト反省ノートや週末課題に意欲的に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は60.3%(-16.8)であり、目標は達成できなかった。			
		評価指標 ②	「確認テスト・小テストに向けて学習に取り組んだ」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は65.0%であり、目標は達成できなかった。			
	活動計画	①	テスト反省ノートの作成方法を指導したり、予習・復習を促す週末課題を作成することで自主的・計画的な学習習慣を育成する。	週末課題の分量やタイミングなど教科間での連携をとりながら生徒が無理のない範囲で行えるように工夫してきたが、計画的に取り組ませるレベルには至っていない。			
		②	確認テストや小テストを実施することにより、主体的な学習を促し、基本事項の定着を図る。	重要事項に絞って各教科で小テスト等を実施してきたが、家庭でじっくり取り組んでくると生徒の割合が低かった。			
	(4) 目的意識を持った学習態度の育成	評価指標 ①	「定期テスト・実力テスト・校外模試に向けて計画的に学習している」生徒の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は65.7%(+1.4)であり、上昇はしたが目標達成には至らなかった。			
		評価指標 ②	「定期テスト・実力テスト・校外模試の反省・復習を行っている」生徒の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は53.0%(-4)となり、目標は達成できなかった。			
活動計画	①	定期テスト・実力テスト・校外模試に向けて、主体的・計画的に学習させ、学力の向上と進路目標の実現に向けて努力させる。	テストの実施計画や出題範囲等を周知し、計画的に取り組むよう指導したが、自主的・主体的な取り組みに欠けていた。				
	②	定期テスト・実力テスト・校外模試の結果を検証し、授業や個別面談等で指導する。	3年生では模試直後の自己採点が為されていたが、その他では振り返りが不十分で、期待された成果が得られなかった。				
(5) 家庭学習の充実	評価指標 ①	全生徒の年間平均家庭学習時間2.8時間以上、1年生2.7時間以上、2年生2.8時間以上、3年生3.5時間以上。	平均家庭学習時間(5回の家庭学習時間調査の平均による)平日1日2.7時間(昨年2.5時間)、2日2.5時間(昨年2.3時間)、3日3.7時間(昨年3.6時間)、全学年平均2.9時間(昨年2.8時間)で概ね目標を達成した。				
	評価指標 ②	家庭学習時間調査において、学習時間が1時間未満の生徒の割合を、4%以下にする。	家庭学習時間1時間未満の生徒の割合の変化:1年1.43%→1.91% 2年3.35%→0.96% 1年では年度末にかけて上昇、逆に2年では減少しているが、総数として目標は達成した。				
活動計画	①	家庭学習時間調査を通して、家庭における学習状況を把握し、指導に活用することで学習習慣を確立させる。	定期的に家庭学習時間調査を実施し、その結果をフィードバックして指導に活用することで、学習意欲を高めた。				
	②	学年集会等を利用して学習の意義や具体的な学習方法について指導し、家庭での学習習慣の必要性を理解させる。	授業や集会等を通じて、日常的に学習に取り組むことの重要性を指導することで、全体として家庭学習時間が1時間未満の生徒は非常に少なくなった。				
(6) 興味・関心を高める教育	評価指標 ①	「よくわかる授業を実践することができた」教職員の肯定的評価80%以上 「先生の授業はよく理解できた」生徒の肯定的評価80%以上	教職員の肯定的評価は88.6%(+1.6)、生徒の肯定的評価は89.0%(+3)で目標はほぼ達成できた。				
	評価指標 ②	「SSH事業の各種活動に参加してよかった」生徒の肯定的評価60%以上	12月に1・2年生を対象として実施した生徒意識調査では「SSH活動に参加して良かった」生徒の肯定的評価が80%で目標値をクリアした。				
活動計画	①	確かな学力を定着させるため、生徒の興味・関心を高める工夫がなされた、わかりやすい授業を行う。	授業研修、協働的問題解決学習の職員研修などを計画的に実施し、よく工夫されたわかりやすい授業の実践に努めた。特に英数においてスーパーティーチャーによる研修も実施した。				
	②	魅力あるSSH事業を展開し、知的好奇心を向上させる。	新たに屋久島研修・台湾海外研修を実施した。また、東京大学金曜講座、東大・京大とのテレビ会議などICTの活用をはかった。				
(7) 家庭との連携	評価指標 ①	「保護者のPTA総会・学年PTAへの参加者数」保護者参加者数の割合50%以上	PTA総会参加者は284人で45%(-4)であった。学年PTA参加者は1学年が97人で46%(-5)、2学年が94名45%(-2)、3学年が139名67%(+0)であった。				
	評価指標 ②	「ホームページは、学校の活動状況等を理解するのに役立っている」保護者の肯定的評価70%以上	保護者への学校評価アンケートの結果、「ホームページは、学校の活動状況等を理解するのに役に立っている。」の肯定的評価は66.1%(+3.3)であった。				
活動計画	①	PTA総会や学年PTAへの積極的な参加を促す。	案内文の発送から返信までの期間を十分にとり、その間担任より生徒を通じて複数回の呼びかけを行った。				
	②	ホームページの更新を年間100回以上実施する。	ホームページの更新は、年間200回以上できた。				

重点目標	課題	評価指標と活動計画	評価指標達成度及び活動計画実施状況	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題
高い志を持ち、目標の実現に向けて努力し、社会のリーダーとしての活躍を成すことを目指す。	(1) 望ましい職業観・早期の進路意識の育成	評価指標 ①	「小論文・プレゼン学習や講演会等のW-ing/SW-ingプランの学習を通して、進路意識が高まった」生徒の肯定的評価65%以上 「授業やホームルーム活動を通して、生徒の進路意識を向上させることができた」教員の肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価は66.6%(+1.6)であり、目標を達成した。また、教員の肯定的評価は93.2%と目標値を大きく上回った。	B	「進路意識」について、生徒の肯定感と教員の肯定感の間に大きな開きがあるのが気になる。このアンケート結果を踏まえ生徒の肯定感の向上に努めてほしい。 ○入試環境の変化に対応して情報提供を行い、「道標」の内容を改訂していく必要がある。 ○生徒会活動が生徒主体の活動になるようさらに支援していく必要がある。 ○生徒が新ISO清掃活動に自主的に参加するよう案内方法等を改善する必要がある。 ○英検やGTECは今後も進学や就職において重視される検定資格であることから、次年度は、教科担任等による積極的な受検を促す広報や動機づけを工夫改善し、受検率を向上させる必要がある。 ○国際社会への興味関心を高めるために国際機関やニュースを授業で扱う取り組みも増やし、国際社会の一員であることを認識させる必要がある。 ○主催者教育の推進を図っていく必要がある。
		評価指標 ②	「SSH活動は大学進学後の志望分野探しに役立った」生徒の肯定的評価60%以上	12月に1・2年生を対象として実施した生徒意識調査では「進路（進学先・職業）を考える上で役に立った」の肯定的評価は66.9%であった。		
	活動計画	①	小論文・プレゼン学習・講演会・W-ing/SW-ingプランの活動に積極的かつ意欲的に取り組ませるとともに、進路を考える機会となるよう指導する。授業やホームルーム活動の中で、生徒の進路意識を向上させるよう働きかける。	教科の学習ではない活動を通して身につけた力が生徒個々の進路形成にとって重要であり、かつ入試改革の方向性にも対応していることを説明した。		
		②	SSH活動への参加を将来の志望分野探しに役立たせる。	SW-ingカレッジや「脇高を出よう！」など進路を考える上で参考になるプログラムを実施した。		
	(2) 個々の希望や適性に合った多様な進路指導	評価指標 ①	「先生は面談等を通じて、進路についてよく指導してくれる」生徒の肯定的評価85%以上 「教員は個人面談などを通して、個々の生徒に応じた丁寧な進路指導をしている」保護者の肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価は78.5%(-3.6)であり、目標値を達成できなかった。また、保護者の肯定的評価は84.0%(-3.8)であり、昨年度より数値を下げた。		
		評価指標 ②	「『道標』をはじめとする各種の進路情報は充実している。」生徒・保護者の肯定的評価70%以上	生徒の肯定的評価は71.2%(+2)、保護者の肯定的評価は87.1%(-0.8)であり、両者とも目標を達成した。		
	活動計画	①	定期的な個別面談や三者面談を実施するなど、きめ細やかな進路指導を行う。	学年ごとの「面談カレンダー」を作成して、面談を通じた進路指導に対する目線合わせを行い、かつ進路検討会では共通理解を図れるようにしたが、生徒にとっての実感を得られなかった。		
		②	必要な進路情報を生徒・保護者に分かりやすく提供するとともに、『道標』の内容を充実させる。	入試の変化に対応して新しい内容を盛り込むとともに、進路集会を通して丁寧な説明を行った。		
	(3) 生徒保護者が希望する進路目標の達成	評価指標 ①	生徒・保護者から希望の高い国公立大学への合格者数が、在籍生徒数の50%以上	国公立大学に98名（3月10日現在）が合格している。京都大学のAO入試合格など新しい入試制度においても成果を出すことができた。		
		評価指標 ②	「部活動顧問は、生徒の学習状況を考慮してバランスのとれた活動時間を設定している」生徒・保護者の肯定的評価80%以上	生徒からの肯定的評価は70.2%(-5)、保護者からは73.5%(±0)で、生徒からの評価が昨年より低下したので改善策を考えたい。		
	活動計画	①	日常の取り組みを学習成績に反映させ、丁寧な進路指導を行うことで個々の進路実現に結びつける。	個々の生徒の希望と能力に応じた進路指導に努めてきた。センター試験の出願・受験率は高まった。		
		②	学習と課外活動とのバランスを取りながら、生徒の自己実現に向けた指導を行う。	全校集会で部活動終了後は速やかに下校し、メリハリのある学校生活を送ることを促し、生徒の学習時間の確保に取り組んだ。		
	(4) 将来、社会において活躍しうる協働高生の育成	評価指標 ①	「学校祭や球技大会などの学校行事は、生徒会が中心となり活発に活動できている」生徒の肯定的評価50%以上	生徒からの肯定的評価は86.0%(-0.4)教職員からの肯定的評価は88.9%(-2.8)で、目標を達成できた。生徒会主体で、学校祭や球技大会の運営ができた。		
		評価指標 ②	「服装・言葉遣い・時間厳守を心がけた生活をしている」生徒の肯定的評価85%以上	生徒からの肯定的評価は84.9%(+0.7)で、ほぼ目標を達成できた。		
	活動計画	①	学校祭や球技大会などの学校行事は、生徒会主体で積極的に運営し、協働意識を高め、社会性を育てる。	週1回生徒会会議を持ち、生徒会が主体となり読書のアンケートをしたり、生徒昇降口に生徒会お知らせボードを設置するなど、新しい試みを実践した。		
		②	身だしなみについて各クラス・各学年・学校全体で継続的な指導を行う。また、朝のあいさつ運動を毎月実施する。	各クラス・各学年・学校全体で継続的な指導を行った。また、朝のあいさつ運動を毎月実施した。		
	(5) 将来、社会に貢献しようとする人材の育成	評価指標 ①	「ISO清掃活動等、各種ボランティア活動に積極的に参加している」生徒の肯定的評価50%以上	生徒の肯定的評価は41.5%(-3.8)で目標を達成することはできなかった。案内等を工夫し、さらなる参加を促したい。		
		評価指標 ②	「修学旅行の自主研修に積極的に取り組み、社会への関心が高まった」生徒の割合80%以上	96%の生徒が満足しているとの回答があった。		
活動計画	①	ボランティア活動への積極的な参加を呼びかけ、社会貢献への意識を高める。	各種ボランティアの案内を各クラスを通じて行っているが、生徒が積極的に参加するまでには至っていないので、啓蒙を続けたい。			
	②	修学旅行の自主研修「企業・官公庁等訪問」やその事前研究、事後発表を充実させ、社会への関心を高める。	修学旅行の研修は、事前研修を5回程度実施し、研修後はポスターを作成し、掲示するなど、他の研修参加者と意見交換を行った。多面から様々なことを学ぶことができたよ研修となった。			
(6) グローバル化に対応できる人材の育成	評価指標 ①	「英検やGTECの受検、ALTとの授業に主体的に取り組んだ」生徒の肯定的評価70%以上	48.3%の生徒が「英検やGTECの受検、ALTとの授業に主体的に取り組んだ」と回答した。目標値より20%ほど低かったが、学校評価アンケート後の第3回英検受検率は、第2回8%から24%へと飛躍的に上昇した。また、GTECは98%の生徒が受検している。			
	評価指標 ②	「国際社会の様々な問題に興味・関心を持ち、新聞・書籍・インターネット等を利用して調べている」生徒の割合が70%以上	42.3%の生徒が国際社会に興味関心を持ち自ら調べているが、まだ目標値とは差がある。グローバル化が加速し、自らの国際社会の中で役割を認識させるように英語科教員が積極的に働きかけたい。			
活動計画	①	生徒の英語学習への意欲を高め、英検やGTECの受検をすすめる。国際理解教育の充実をはかり、コミュニケーション能力向上のためにインタビューテストやスピーキングテストを取り入れる。	授業及びHRを通して、英検やスピーチコンテスト、英作文コンテスト等への参加を促した。			
	②	新聞・書籍・インターネット等を活用し、異文化に関する知識と正しい認識を持たせるとともに、グローバル化に柔軟に対応できる能力を育成する。	授業の教材を通して世界遺産や世界的に活躍した人物に触れ、グローバルな視点を持つよう働きかけた。ALTも積極的に授業やESS部において、自らの経験や国際的問題等に触れ、生徒がより広い視野を持つよう促した。			

重点目標	課題	評価指標と活動計画	評価指標達成度及び活動計画実施状況	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題	
3 自尊感情を養い、仲間と協働できる心豊かで公共性を備えたい生徒を育成する。	(1) 環境美化・防災に対する意識の向上	評価指標	① 「清掃活動に積極的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価76.4%と目標数値には届かなかった。清掃道具を充実させ積極的に参加させた。	B	○防災については、防災訓練に関心を持っている生徒の割合を90%以上にしてほしい。高校防災士による活動に留まることなく、今後起こるであろう東南海地震について、1・11の東北地震を教訓にした取組を行わなければならない。想定外のことが起こらないように綿密な防災活動を行ってほしい。○防災については、文化祭等で寝袋体験や非常食の試食等を通して意識付けを高めるよう工夫したつもりではあるが、まだ浸透するには至っていない。今後起こるであろう東南海地震について、1・11の東北地震を教訓にした取組を行わなければならない。想定外のことが起こらないように綿密な防災活動を行ってほしい。○高校防災士を活用し、防災訓練や防災クラブの活動を充実させていく必要がある。	
			② 「防災訓練に、関心を持って積極的に参加している」生徒の肯定的評価85%以上	防災訓練について関心を持っている生徒は67.7%（-3.4）と昨年よりも意識も低下している。東南海地震に備える為にも防災意識を高めるように意識づけさせたい。			
		活動計画	① 快適な環境で学習できるよう、清掃活動やゴミの分別に積極的に取り組ませる。	ゴミの分別は十分できている。校舎内に付着しているクモの巣等も掃除できている。引き続き環境美化に努めたい。			
			② 高校生防災士を活用して、参加体験型訓練など、体験を重視した活動を取り入れ、防災に対する関心を高め、家庭でも学校でも積極的に行動できるよう指導する。	防災訓練に参加体験型として煙体験避難訓練を行なった。高校生防災士3名の者がリーダーとなり消火訓練等をおこなえた。			
	(2) 集団や社会の一員として協力	評価指標	① 「ホームルーム活動に積極的に取り組んでいる」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は79.0%(+0.8)で、おおむね目標を達成することができた。さらにホームルーム内容の充実にも努めたい。			(所見) 評価指標関連については概ね達成できた。交通マナーについては、外部からの批判的な指摘は減少したが、交通事故については依然として多く発生し、一歩間違えば重大事故になる事例も見られた。また、不登校認定を受けた生徒が増加したが、各機関と連携し対応することで、自尊感情の涵養に努めることができた。
			② 「部活動を通して好ましい人間関係ができてい」生徒の肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価は77.0%(-3.8)で、目標を達成することができなかった。よりよい人間関係が築けるよう部活動の運営を見直したい。			
		活動計画	① 各課や学年との連携を密にし、ホームルーム活動の内容を充実させる。	生徒が興味関心を抱くよう、各課や学年と連携を取り、ホームルーム活動の内容の充実を図った。			
			② 部活動を通して、集団の中での役割や立場を理解し、仲間と協力して目標に向かって努力できる生徒を育成する。	集会等で、協働的問題解決学習の実践の場合は部活動であり、部活動を通して、社会を生き抜く大切な能力が身につくことを周知した。			
	(3) 基本的な生活習慣の育成、安全教育の推進	評価指標	① 「交通安全・交通マナーについて、日ごろから十分意識し、守っている」生徒の肯定的評価85%以上	生徒の肯定的評価は83.9%(-0.8)で、おおむね目標を達成することができた。交通事故等は15件(+2)（3月10日現在）であった。			
			② 「学校では携帯電話の利用時間を守っている」生徒の肯定的評価80%以上	生徒の肯定的評価は83.6%（+4.3）で、目標を達成することができた。			
		活動計画	① バイクの安全運転実施講習会を開き、車体検査を各学期に行う。また、登下校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底する。	バイクの安全運転実施講習会を脇町自動車学校で開き、車体検査を各学期に行うことができた。また、登下校指導を毎月行うなど、交通安全教育を徹底できた。			
			② 個人面談や家庭及び関係機関との連携を行い、情報モラルを身につけさせるとともに、携帯電話やスマートフォン等の利用ルールを守らせる。	個人面談や家庭及び関係機関との連携を行い、情報モラルを身につけさせるとともに、携帯電話やスマートフォン等の利用ルールを守らせることができた。			
	(4) 保健指導の充実	評価指標	① 「保健だよりの発行」年間10回以上	「保健だよりの発行」を年11回実施した。			
			② 「緊急時に救急措置(AEDを含む)をすることができる」教職員100%	教職員の肯定的評価88.6%(-5.2)で、目標を達成することができなかった。			
		活動計画	① 時節や生徒の生活状況に応じて保健だよりを定期的・臨時的に発行するなど、効果的な保健指導を行う。	生徒全員が保健だよりに目を通すよう、内容の充実にも努めた。			
			② 教職員に加え部活動生徒への救急法講習会を実施するなど、校内救急体制の充実にも努める。教職員対象救急法講習会(年1回実施)	救急法講習会を実施し緊急時に全員が自信を持って救急措置ができるようにすることを基本として取り組んだが、欠席者への対応が十分ではなかった。			
	(5) 教育相談及び特別支援教育の充実	評価指標	① 「先生は相談に誠実に対応してくれている」生徒の肯定的評価80%以上	「相談に誠実に対応してくれている」と肯定的に捉えている生徒は79.8%（-4.6）、保護者は86.5%（-1.6）教職員93.2%（-4.7）で、相談したいが我慢している生徒もいると考えられる。			
			② 「不登校や悩みのある生徒に対して、組織的に対応できている」教職員の肯定的評価90%以上	不登校対策委員会を8回実施し、対応や制度の再確認として共通理解を図った。組織的に対応できていると肯定的に捉えている教職員は91.1%（-4.7）だった。			
		活動計画	① 悩みや不安を抱えていながらも言い出せない生徒がいることを常に意識し、生徒が相談しやすい環境づくりと誠実な対応に努める。	不登校認定を受けた生徒や長期欠席の生徒で教室に入りづらい生徒は、小会議室で学習したり相談活動を行った。学校の中での居場所として活用できた。			
			② 不登校や悩みのある生徒に対して、担任をはじめ教科担任や関係機関とも連携し、組織として迅速な対応ができるように努める。	精神保健センターやスクールカウンセラーと連携し相談体制を整えた。スクールカウンセリング事業は年間12回行った。本人も保護者も特性を受け入れることができるようになり、進路が決定して卒業できた。			
	(6) 人権教育の推進	評価指標	① 「人権問題について学んだことを、日常生活に活かそうとしている」生徒の肯定的評価75%以上	生徒の肯定的評価は73.1%(-1.9)と目標数値を達成することはできなかった。人権問題について「知り、学び、考える」ことはできても、行動にまでつなげようとする意欲にやや欠けていると考える。			
② 「人権学習ホームルーム活動は充実している」生徒の肯定的評価80%以上			1・2学年で1回ずつ実施した学年一斉ホームルーム活動は生徒にとって有意義な活動となったが、人権学習ホームルーム活動全体の生徒の肯定的評価は78.8%（-1.2）と目標数値を達成することはできなかった。				
活動計画		① 「脳高人権の日」のテーマ設定や資料づくりに人権委員を携わらせ、生徒の視点を取り入れることにより、人権問題をより身近なものとして捉えさせる。	「脳高人権の日」のテーマ設定や資料づくりを1・2年生の人権委員が2クラスずつで担当して行った。社会で注目されているニュース等に焦点を当て、高校生の視点を取り入れた資料づくりができた。				
		② 第1・2学年において学年一斉の人権学習ホームルーム活動を年間1回実施する。生徒の実態を考慮しながらホームルーム活動で扱うテーマを再構成するとともに、各学年で指導案や資料を十分に検討し、生徒の主体的な活動を積極的に取り入れる。	第1・2学年において、学年一斉の人権ホームルーム活動を1回ずつ実施できた。今年度は新たに、これまで1学年では扱っていなかった「同和問題」について取り上げ、教材開発に努めた。				
(7) 感性豊かで、調和のとれた人間	評価指標	① 「学校行事・修学旅行・文化祭等の学校行事を通して、芸術や文化活動に積極的に取り組んだ」生徒の肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価は81.9%(+12.5)で、昨年度より大幅に数値が向上した。修学旅行で劇団四季のミュージカルを鑑賞したのが好評であり、要因の一つとして考えられる。				
		② 「普段から読書に親しんだり、新聞を読むように心がけている」生徒の肯定的評価60%以上	生徒の肯定的評価47.8%（-8.6）で目標の達成はできなかった。図書への貸し出し数・入館者数はあまり変わらなかったため、図書委員会を活性化させ、生徒会と連携しながら読書の推進を図りたい。				

【備考】「評価」及び「総合評価の評定」の基準 A:十分達成できた B:概ね達成できた C:達成できなかった

重点目標	課題	評価指標と活動計画	評価指標達成度及び活動計画実施状況	総合評価	学校関係者の意見	次年度への課題										
	性の育成	<table border="1"> <tr> <td>活動計画</td> <td>①</td> <td>学校行事・修学旅行・文化祭等の活動の中で芸術や文化に触れる機会を設け、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>②</td> <td>図書館だよりの充実やコラムの継続及び読書の推進を図る。</td> </tr> </table>	活動計画	①	学校行事・修学旅行・文化祭等の活動の中で芸術や文化に触れる機会を設け、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。		②	図書館だよりの充実やコラムの継続及び読書の推進を図る。	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>文化祭では演劇や吹奏楽の発表の場を設けた。修学旅行で劇団四季のミュージカルを鑑賞したり、映画鑑賞会を実施し、芸術文化に触れる機会を作った。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>毎月図書館だよりを発行するとともに、各学年においてほぼ毎日コラムを配付し読書の意識付けを行った。</td> </tr> </table>		文化祭では演劇や吹奏楽の発表の場を設けた。修学旅行で劇団四季のミュージカルを鑑賞したり、映画鑑賞会を実施し、芸術文化に触れる機会を作った。		毎月図書館だよりを発行するとともに、各学年においてほぼ毎日コラムを配付し読書の意識付けを行った。			
活動計画	①	学校行事・修学旅行・文化祭等の活動の中で芸術や文化に触れる機会を設け、芸術・文化について理解を深めるとともに、豊かな情操を養う。														
	②	図書館だよりの充実やコラムの継続及び読書の推進を図る。														
	文化祭では演劇や吹奏楽の発表の場を設けた。修学旅行で劇団四季のミュージカルを鑑賞したり、映画鑑賞会を実施し、芸術文化に触れる機会を作った。															
	毎月図書館だよりを発行するとともに、各学年においてほぼ毎日コラムを配付し読書の意識付けを行った。															